

基本 目標	方針	No.	指標名	説明	参考値（R元）	実績値（R3）	実績値（R4）	実績値（R5）	実績値（R6）	目標値（R7）	成果・課題等（R6）	事業評価（目標達成度）				所管課
												R3	R4	R5	R6	
Ⅰ 夢に向かってチャレンジする意欲にあふれる人間づくりの推進																
	①自ら学び考える力の育成	1	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合（小学6年、中学3年） ※全国学力・学習状況調査	児童生徒が将来の夢や希望をもって、自己実現に向けて前向きに生活している状況をはかる指標です。	（小学校）83.7% （中学校）73.5%	（小学校）80.5% ※全国80.3% （中学校）69.7% ※全国68.6%	（小学校）80.8% ※全国79.8% （中学校）68.3% ※全国67.3%	（小学校）81.6% ※全国81.5% （中学校）67.1% ※全国66.3%	（小学校）82.7% ※全国82.4% （中学校）67.3% ※全国66.3%	（小学校）90.0% （中学校）80.0%	小学校では「ふくしま・ふれあい・夢ぶらん」を実施することにより、地域の「ひと」「もの」「こと」と直接ふれ合う体験を通して地域のよさを実感し、将来の夢や目標を膨らませる児童が、参考値を下回ったものの、昨年度の実績値や全国平均は若干上回った。中学校でも、「中学生ドリームアップ事業」において職場体験を行うことで、実際に働く人の姿に触れたり、体験等を行ったりし、参考値を下回ったものの、昨年度の実績値や全国平均は若干上回った。本事業がさらに生徒の主体性が発揮されるものとなるよう改善を図っており、次年度以降数値の向上が期待される。	C	C	C	C	学校教育課
	②健康で安全・安心な生活の確保	2	今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査	児童生徒が一体となった地域づくりの取り組みを通して、豊かな社会性や協調性が身に付いているかをはかる指標です。	（小学6年）64.9% ※全国68.0% （中学3年）42.4% ※全国50.6%	（小学校）52.3% ※全国58.1% （中学校）33.1% ※全国43.7%	（小学校）47.8% ※全国52.7% （中学校）32.1% ※全国40.0%	（小学校）50.2% ※全国57.8% （中学校）31.4% ※全国38.0%	/	（小学6年）70.0% （中学3年）50.0%	全国学力・学習状況調査において、児童生徒質問紙調査から本指標に係る質問項目がなくなったため評価不能となった。	C	C	C	—	学校教育課
Ⅱ 青少年の豊かな人間性をはぐくむ家庭づくりの推進																
	①家庭生活の充実	3	各地区青少年健全育成推進会の開催回数	家族ぐるみで参加可能な地域の特色を生かした活動の実施状況をはかる指標です。	延412回	延315回	延331回	延395回	延405回	延450回	各地区青少年健全育成推進会において、地域の子どもたちの健全育成・非行防止のための様々な取り組みがなされ、定期的な登下校時の見守り活動のほか、長期休暇における非行防止パトロールを実施、子どもたちにとって安心安全な地域づくりが実践されている。 このほか、親子清掃や門松づくり、職場体験、釣り大会などそれぞれの地区で、地域に根差した活動が行われた。これらの地域との関り、家族とのふれあいを通して、子どもたちの豊かな人間性が育まれている。	C	C	C	B	こども政策課
	②困難や配慮を要する状況に応じた支援の充実	4	非行少年等補導件数	青少年が非行や問題行動などを起こすことなく、健全に生活している状況をはかる指標です。	417件	303件	156件	254件	307件	330件	青少年の非行防止活動として福島駅周辺や各方部で街頭補導活動を実施し、年間333回、延べ1,273名が補導活動に従事し、わらじ祭りや稲荷神社例大祭、曉まいりの際には特別街頭補導を実施した。 非行少年等補導件数の目標値の達成は、継続的な補導活動の取り組みが一助となったと考えられるが、情報化の進展による青少年のライフスタイルの変化が大きき一因になったとも考えられる。 引き続き補導活動をととして、青少年に寄り添い・見守りながら非行防止に努めることとする。	A	A	A	A	こども政策課
Ⅲ 思いやりや活気にあふれる地域づくりの推進																
	①多様な主体による活動の育成・支援	5	放課後児童クラブの定員数	子どもの居場所及び子育て環境の充実度をはかる指標です。	3,106人	3,598人	3,428人	3,646人	3,772人	3,426人	96か所で実施。平成27年度より、子ども・子育て支援事業計画に基づき事業の展開を図っており、令和6年度においても計画的に増設を行った。 今後も利用ニーズの把握し、放課後の遊びや生活の場を確保に努めたい。	A	A	A	A	こども政策課
	②関係団体の強化と指導者の養成・活用	6	ユースプレイス自立支援事業を利用し、自立に向けて次の一歩を踏み出した利用者の割合	ひきこもりやニートなど困難を抱える若者を社会参加に繋げるための支援の状況をはかる指標です。	53.1%	59.20%	68.90%	82.90%	70.9%	60.0%	ひきこもりやニートなどの困難を抱える若者に対し、安心できる居場所の提供と、各種活動を通し自己肯定感を醸成することができるプログラムを提供し（コミュニケーション講座、ボランティア活動、仕事体験など）、社会的自立の促進を図った。 ・登録者数：31人 ・プログラム実施回数：173回 ・プログラム参加者数：延べ306人	B	A	A	A	こども政策課
Ⅳ 健全で有益な情報通信環境づくりの推進																
	①情報通信技術の活用	7	児童生徒のICT活用を指導する能力を有する教員の割合 ※学校における教育の情報化実態に関する調査（教員のICT活用指導力の実態）	児童生徒の情報活用能力の育成の状況をはかる指標です。	64.3% ※全国71.3%	68.8%	67.80%	89.30%	93.40%	75%	研修者のスキルに応じた研修内容にすることや、オンラインやオンデマンド形式といった場所や時間に捉われずに受けられる研修を設けたことで、より充実した内容で研修を実施することができた。また、管理職およびICT推進員と面談しながら活用方法を提案したことも、成果指標の上昇につながった。 一方で、転入や新規採用により新たに本市のICT環境で業務を行う教職員がいるほか、教員のICT活用スキルに差が生じているため、効果的な活用に向けた内容の拡充に向け、継続して取り組む必要がある。また、教職員用端末の更新に合わせて、セキュリティポリシーやドライブの共有方法等も周知し、教職員の情報リテラシーを高めていきたい。	B	B	A	A	教育研修課